

温室効果ガス削減計画

1 事業の概要

(1) 事業所の名称

テクノUMG株式会社 大竹事業所

(2) 事業所の所在地

広島県大竹市御幸町20番1号

(3) 業種

テクノUMG株式会社 大竹事業所 …1735 プラスチック製造業

(4) 事業所位置図 別紙のとおり

2 計画の期間

本計画の期間は、平成25（2013）年度を基準年度とし、令和3（2021）年度から令和12（2030）年度までの10年間とする。

3 計画の基本的な方向

当社は、SDGsなどの地球規模の課題や各地域の抱える社会問題について、より深く理解して企業活動を行う必要があると考えており、企業活動を通じて価値創造することで、SDGsの実現に貢献する。

脱炭素化社会への取り組み：

当社は、2050年カーボンニュートラルの実現を目指したプロジェクトを推進しており、生産時排出CO2削減のために、燃料転換、再生可能エネルギー利用を検討する。

4 温室効果ガスの排出状況（二酸化炭素換算）

【エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量（t-CO ₂ ）	
	基準年度	直近年度
	平成25（2013）年度	令和 3（2021）年度
二酸化炭素	33,181	31,966

【非エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量（t-CO ₂ ）	
	基準年度	直近年度
	平成（ ）年度	令和（ ）年度
二酸化炭素		

【その他温室効果ガス】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量（t-CO ₂ ）	
	基準年度	直近年度
	平成（ ）年度	令和（ ）年度
メタン		
一酸化二窒素		
その他 温室効果 ガス (H F C P F C S F 6 N F 3)		

5 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量（t-CO₂），削減率（％）

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成25 (2013) 年度)	削減目標		目標年度 (令和 12 (2030) 年度)
	排出量 (a)	削減率 (b)	削減量 (c)	排出見込量 (d)
エネルギー起源CO2	33, 181	36. 3	12, 041	21, 140
非エネルギー起源CO2				0
メタン				0
一酸化二窒素				0
その他 温室効果ガス				0
温室効果ガス 実排出量総計	33, 181	36. 3	12, 041	21, 140
温室効果ガス みなし排出量		-		21, 140
目標設定の考え方	2050年カーボンニュートラルの実現を目標に、当社は2030年40％削減（対2018年）、2040年75％削減（対2018年）を目標としている。 ※平成13年度排出量を基準にすると2030年36％削減			

※ 削減率(b) = (c) / (a) × 100 削減量(c) = (a) - (d)

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標：

単位：排出量(t-CO₂），原単位量（kg等），削減率（％）

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成 () 年度)			原単位 削減目標	目標年度 (令和 () 年度)		
	排出量 (a)	原単位 数値 (b)	原単位 (c)	削減率 (d)	排出 見込量 (e)	原単位 見込数値 (f)	原単位 見込 (g)
エネルギー起源CO2							
非エネルギー起源CO2							
メタン							
一酸化二窒素							
その他 温室効果ガス							
総排出量							
エネルギー消費原単位 (原油換算 k 1)	-	-		0. 0	-	-	
目標設定の考え方							

※ 削減率(d) = { (c) - (g) } / (c) × 100 原単位(c) = (a) / (b) 原単位見込(g) = (e) / (f)

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置項目及び目標並びに具体的な取組等

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組

	項 目	数値目標	具体的な取組
1	電気使用量の削減	電気使用量の削減	・ 冷暖房温度の適正管理 ・ 省エネ機器への更新 ・ 運転条件の見直し
2	調達電力見直し	非石炭由来電力の導入	・ 非石炭由来の電力導入を検討
3			
4			

※ 原単位で作成する場合は、数値目標欄の記載例中、「使用量」を「原単位」に適宜読み替えること

○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組（環境価値の活用等）

	種 類	合 計 量
1		
2		
3		

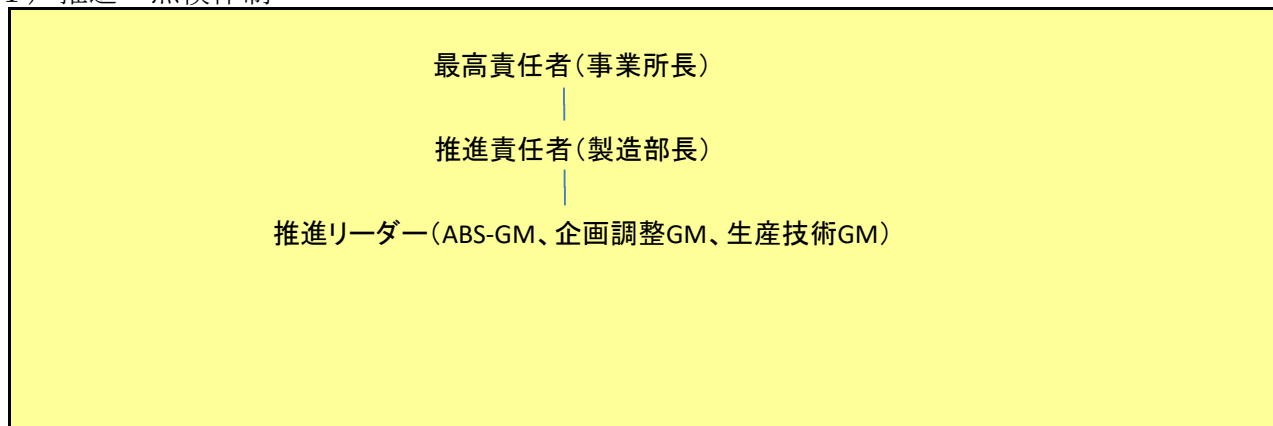
○ その他の取組

	項 目	数値目標	具体的な取組
1			
2			
3			

※ 環境に配慮した実践的な取組などをされていれば記入してください。

7 温室効果ガス削減計画の推進並びに実施状況の点検及び評価に関する方法等

(1) 推進・点検体制



(2) 実施状況の点検・評価

生産技術Gを中心に、大竹事業所の年間温室効果ガス削減計画の立案・進捗管理を行い、月度定例会等で評価・見直しを行う

(3) 計画書等の公表

テクノUMG社、テクノUMG大竹事業所での公表はなし。
JSRグループとして計画をホームページで公開。

別紙

4

4

